

本県初 日本耳科学会総会、10日開幕

# 聴けば分かる 耳の未来

耳科学分野の最新治療や再生医療に結び付く基礎研究、人工知能（AI）やロボットの活用について意見を交わす日本耳科学会の総会・学術講演会が10日から3日間の日程で、山形市内で開かれる。本県初開催で、国内外から約千人の研究者が訪れる。耳科学の世界最先端の研究発表や討論などを通じて、手術の安全性向上や教育の充実につなげる。

同学会は、内視鏡下耳科手術で第一人者の欠畑誠治山形大医学部耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座教授が会長を務める。総会は29回目。10、12日に山形テルサ、ホテルメトロポリタン山形の2会場で開く。初日に欠畑氏による会長講演が山形テルサで行われる。

会長考案の特別企画は過去最多の60を超える。内視鏡下耳科手術をはじめ14の最新トピックを題材として国内外の研究者が発表、討論を行う企画では、いずれも内視鏡を使った耳科手術の権威プレスツティ・モデナ大教授（イタリヤ）、マルキオーニ・ベローナ大教授（同）を迎える。40代以下の気鋭の研究者による「ネクストジェネレーションセッション」は頭蓋底外科手術などの臨床、内耳領域の再生医療、AIの活用

## 先端技術や再生医療 発表、討論

といった未来の耳科学を考える11演題で研究発表、討論を展開する。

講演は370人以上を見込む。会場では超高精細4K画像や3D投影などで最新手術の動画を紹介するほか、3D対応の眼鏡を使って立体動画を見ながら症例、治療法について討論する企画も予定している。

内視鏡下耳科手術は耳の穴から内視鏡を入れ、モニターで視野を確保しながら病変を除去する先進医療で患者の負担が小さく、患部も細かく視認できる利点がある。欠畑氏はこの分野をリードし、医工連携を進めるためマイクロン精密（山形市）とタイアップし耳科用超音波骨手術装置の開発にも取り組んでいる。

一般参加も可能で、詳しくは日本耳科学会のホームページで確認できる。高級車フェラーリのデザインで知られる世界的工業デザイナー・奥山清行さん（山形市出身）の講演も行われる。欠畑氏は今回の学会を通じ、「若い耳科医たちが治療技術向上に結び付くトツプレベルの研究に触れる貴重な機会。山形から耳科学を発展させていきたい」としている。



日本耳科学会会長として学会総会を開く山形大医学部の欠畑誠治教授

山形市・同学部

（佐藤裕樹）